『 高速道路網と情報活用連携の可能性について 』

新庄市

株式会社さくらプランニング　取締役　工藤（くどう） 恵子（けいこ）

当社は、企業や行政、NPO や団体等、幅広い層の広告・出版物のデザインや WEB サイト・動画制作をはじめ、様々な情報発信支援を行う企画制作会社として平成 29 年に設立いたしました。特に、お客様が抱える課題解決のため、既存の資源「ヒト・モノ・コト」を最大限に活かせるようコーディネートすること、それぞれの強みを掛け合わせて新しい発想や仕組みを生み出していくことで、地域社会に貢献することを企業理念としております。こうした会社を設立した背景には、ものづくり県である山形を国内外に発信していきたいという想いがあり、この情報化社会において地方であることは必ずしも不利ではなく、どこにいても世界と繋がり十分闘える時代になったのではないかとの考えがあったからです。

さて、新型コロナウィルス感染症の世界的広がりから早２年、今後もその対応として「密」を避けざるを得ない状況は続いていくと考えられます。これまでの首都圏への一極集中構造から、それぞれの拠点都市へ分散していくニーズは高まることでしょう。現に、子育て世代は子育て・教育のより良い環境を求めて、シニア世代は自身の思い描くセカンドライフの充実を求めて地方へ移住する人が増えています。こうした動きを一過性に終わらせず、成功させるカギの一つとなるのが、高速道路網の整備と拡充だと思います。人がサービスやコンテンツを求めて特定の場所へ集う従来のニーズもさることながら、今後はサービス提供者が個々のニーズに対応する機動型店舗、例えば飲食店がキッチンカーに置き換わっていくような、こうした手法でビジネスチャンスを広げていく傾向は今後更に増えていくのではないでしょうか。また、自宅にいながらにしてほしい商品が手に入るネット販売が増え、店舗を持たなくても商売ができる時代になりましたが、商品の製造とそれらの輸送はなくなったりはしません。安定的な物流に不可欠なのは基幹道路とそこへのアプローチであり、それがどれ

だけ無駄なくできるかが非常に重要です。加えて、コロナの影響もありサプライチェーンの国内回帰に関心が高まっています。製造業を中心に生産拠点としての地方の役割も増してくることでしょう。

そして、もう一つのカギは、身近になっていく高速道路網の利用と連動させ、人流・物流データを解析し必要な情報コンテンツとして発信していくような、更なる活用の充実化にあると思います。例えば、ETC2.0 のような道路と車の両方向性の情報システムがもっと普及すれば、交通事故や災害等による渋滞の把握、物流効率の向上、沿道環境への影響といった様々な問題解決に役立つことは間違いありません。また、ドライバーが最短で移動でき料金も安く済むのであれば、観光や地方移住へのハードルは下がり、より地域社会への好循環をもたらすことが期待できます。移動に最適な時期・時間帯やプランが、こうしたビッグデータの解析から応用活用させるようになれば、生活や事業の拠点を地方に置くことは特別珍しいことではなくなっていくのではないでしょうか。

縦軸である東北中央自動車道は福島県相馬市から秋田県横手市まで約 270km、この全面開通は拠点と拠点を結ぶ太くて重要なパイプです。そして横軸である新庄酒田道路の早期完成は、最上地域に生活する私たちだけでなく、村山・庄内地域や秋田県境の近隣地域が安心して繋がることのできる基盤となります。高規格道路の整備と拡充は、地域の暮らしを守り、地域の発展と未来に向けて架けていくべき「橋」となると考え、その早期実現に大いに期待しています。